

は し が き

この記録は、平成5年の1月から12月の間に執行された国政選挙、地方選挙の結果をまとめたものです。

今年の国政は、東京佐川急便事件を初めとする政治家とお金の癒着が一気に露呈し、政治の腐敗防止を目的とする政治改革を求める声が高まりました。

しかし、今年6月、政治改革関連法案についての国会の審議が行き詰まり、内閣不信任案が可決され、衆議院の解散、並びに既存政党の党内分裂という事態になってしまいました。

政治改革解散といわれ、政治改革の実現が争点となった今回の総選挙は、歴史的に大きな意味を持つ選挙になり、その結果を見てみますと、38年間続いた自民政権が幕を閉じ、新しい政党を含めた8党派の連立政権が誕生したのです。

ところが、政治改革を争点とした歴史に残る選挙であったにもかかわらず、国民の関心は冷めたものでした。昨年参議院議員通常選挙が史上最低の投票率を記録したのに続いて、今回の衆議院議員総選挙においても、総選挙史上最低の投票率を記録してしまったのです。

しかし、新しい政権の誕生という選挙結果は国民にとって、有権者としての自覚と政治への関心と呼び戻すきっかけとなることが予想されますので、今後、選管としても関係団体等の協力を得ながら、選挙啓発に一層の力を注がなければならないと考えます。

管理執行の面では、今回の選挙は、平成4年12月の公職選挙法の一部改正による選挙公営の拡大、選挙運動期間の短縮、供託金の引き上げなど、新しい制度の下で行われた初めてのものでした。

最後に、今回の総選挙が、マスコミ等の解散情報から実際の解散までの日数が短期間であったにもかかわらず、大きな問題もなく、無事終了しえたのは各市区町村選挙管理委員会をはじめ関係各位の多大なご協力の賜と深く感謝する次第であります。

この記録を関係各方面でご活用いただければ幸いに存じます。

平成5年12月

福岡県選挙管理委員会
委員長 田 辺 俊 明